

映画のなかの学校

映画には、学校をはじめとしてさまざまな教育の場面が描かれます。いつも本の特集を組んでいるまめりブですが、今回は視点を少し変えて、映画に出てくる学校をノンフィクション・フィクション問わず、紹介します。教育実習に行く人も行かない人も、この夏は、映画をみて、自分の理想の「先生」を探してみませんか？

目次

表……清水先生コラム ・ おすすめの映画

裏……学校・教育の現場が出てくる映画の紹介

📖 図書館からのお知らせ

★ 閲覧席一部閉鎖のお知らせ

図書館閲覧席スペースの床改修工事のため、下記の期間該当スペースが利用できませんのでお知らせします。

平成24年8月6日(月)～8月7日(火)

2階東側及び南東側閲覧席スペース閉鎖

平成24年8月8日(水)～8月9日(木)

1階南東側閲覧席スペース閉鎖

★ 休館のお知らせ

8月10日(金)～15日(水)

*館内清掃及び大学夏季一斉休暇のため

なお、8月16日(木)は、防災設備

点検のため、担当者がフロアで作業をさせていただきます、非常ベルがなる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

～映画に出てくる学校～

『グスターボ・ドゥダメル プロミス・オブ・ミュージック』について

芸術・スポーツ科学系音楽・演劇講座音楽分野
清水和高先生

貧困に立ち向かう音楽教育

ラテンアメリカの途上国ベネズエラに現在オーケストラ活動を通じて、子ども達を貧困や犯罪から救おうとする活動「エル・システム」というプロジェクトがある。国家を挙げたこの事業が大成功し全世界で注目を浴びている。

このDVDは、スラム街で目的を持つことが出来ず彷徨う子ども達が、このプロジェクトにより見事に生きる喜びや夢をもち、やがて世界の検舞台に立つまでのドキュメントである。

このエル・システムは、決して裕福ではない家庭の子ども達でも平等に音楽教育を享受できるために、楽器は国から貸与され、教育もすべて無料で行われていることが最大の特徴である。芸術、特にクラシック音楽はお金がかかるものとして国は消極的関与になっていく傾向が世界的に見られるが、日本の現在の状況も惨憺たる有様だ。

私が特に印象を受けたのが、場面の最初に写る犯罪が多発するスラム街をたむろする子ども達の姿と、教室に通う子ども達の表情である。前者は下を向き歩いているのに対し、後者は希望に向かって顔を上に向け表情が豊かだ。

子ども達の成長の軌跡

DVDには、楽器を始めて間もない子ども達の合奏や、犯罪や非行に手を染めてしまった子ども達の矯正施設における合奏、青少年のオーケストラ、そして選抜されたメンバーによる最高峰のオーケストラ(シモン・ポリバル・ユース・オーケストラ)の練習の場面を見ることができる。年齢を追う毎に着実に正しく進歩している様子と、そこから生まれた選抜オーケストラの集大成としての演奏は見事の一音で、エル・システムの理念の確かさを裏付けるものである。

そしてこのプロジェクトを卒業し、世界的な音楽家として大成したメンバー達が口をそろえて、定期的にベネズエラに帰り自分が受けたこの恩恵のお返しをし、役に立ちたいと言っている。どんなに大成しようと国を愛し、恩義を忘れずにいる姿こそが、我々が当たり前のように物質文明を享受しているが上に失いかけている大切なものではないだろうか。

📖 清水先生おすすめのDVDと本

★ グスターボ・ドゥダメル プロミス・オブ・ミュージック

(DVD, 請求記号: 764.3/UNI)

★ 魂の教育 エル・システム --音楽は世界を変える

(DVD, 請求記号: 778.237/BAR)

★ エル・システム

音楽で貧困を救う南米ベネズエラの社会政策

(図書, 請求記号: 379.3/YAM)

★ 貧困社会から生まれた“奇跡の指揮者”

グスターボ・ドゥダメルとベネズエラの挑戦

(図書, 請求記号: 762.613/YAM)

『蝶の舌』 スペイン

1936年、スペインのガリシア地方の田舎の学校で、病気のため入学が1年遅れた少年モンチョと、引退を目前にした老教師の温かい交流を描いています。さらにモンチョの家族や親友たちとのほろ苦く甘い日々も描かれ、心が温まります。ところが、のんびりと鑑賞していると、衝撃のラストが!!最後の10分がこの映画のすべてとって過言ではないでしょう。時代背景がわかると、より深く理解できます。

図書館1Fエントランスで展示中。展示終了後は↓

『天然コケッコー』 日本

山と田んぼと海がある田舎の学校は小・中あわせて全校生徒6人。そこへ東京からイケメン男子の転校生がやってくる!授業は小学校と中学校に分かれますが、給食を食べるのは一緒、登下校も一緒、海に行くのもやっぱり一緒。7人の生徒たちがまるで兄弟みたいに生活しているのがとってもうらやましく感じます。先生たちものんびりしていて、こういう学校の先生もいいな、と思うのです。

映画の中の学校

『クローズド・ノート』 日本

主人公の香恵とともに、小学校教師の伊吹先生が書いた日記を読んで、微笑んだり、ドキドキしたり、心配したり...

ラブストーリーですが、恋愛模様よりも伊吹先生の生徒達に真摯に向き合う姿が心に残ります。

『学校Ⅱ』 日本

ご存知、山田洋次監督『学校』シリーズの第2作。舞台は北海道にある高等養護学校。

子ども達の個性を認め、成長を喜ぶ。教師ってとっても大変だけれども、やりがいのある仕事だと思えます。

OPACで検索してください。観たい方はDVDをもってカウンターまで!

『フリーダム・ライターズ』

アメリカ

自分の思いを書くという行為を通じて、変わっていく生徒たち。教師の情熱と型破りな授業に惹きつけられます。これが実話ってことがスゴイ!

『あの子を探して』中国

中国の僻地の小学校、カオ先生の1ヶ月の休暇中、代わりの先生としてやってきたのは13歳の少女でした。映画は彼女がいなくなった生徒を探しに行く物語ですが、舞台となった僻地の学校の現状に心が痛みます。生徒がいなくなったのも、親が働けず出稼ぎに行くため、先生の給料は半年間支払われていない、校舎は40年前に立てられたオンボロで...。10年後の今では少しは改善されているのでしょうか...